

## カタカナの導入 指導案(例) トピック「ディズニーランド」

学齢	小1～中3	教材	ディズニー多言語マップ (ディズニー関連施設で各言語の施設マップを無料で配布している)
学習者	カタカナ導入時の学習者 初めて接する子どもや、文字の練習はしたが初期でカタカナ語彙について概念が定着していない子ども、ある程度カタカナの読み書きができる子どもなどのレベルの異なった混合クラス		
備考	日本語のレベルが異なっても、習熟度に応じて役割を変えることで学習意欲を持たせ、カタカナの読みを自律的に学習させる		

### 学習目標

カタカナの導入時は、カタカナで書くことばがあるということを認識する  
カタカナで表される語彙を会話に利用する  
復習の場合、読み書き、ディクテーションなどにつなげる  
～にこう、また ～が好き、楽しい、怖い、速いなどの形容詞を使って、自律的な会話に誘導し、認識語彙を活用語彙として定着させる

### 活動の概要

ある程度文字が書ける子ども、カタカナ導入時の子ども、机の勉強に飽きてきた子どもにディズニーランドのマップを使って、カタカナの認識、発音、動詞「行こう」、感情の形容詞などの語彙の強化と、既習の文型の確認を目的に30分程度の活動をする。  
ディズニーランドなどには行けない子どももいるので、貧困の格差が話題にならないように配慮する。

その他、ポケモンのモンスターの名前などその子どもの関心のあるアニメや話題を使った言語活動をしながら、文字認識だけではなく、既習の文型などに気づかせるように意識する。

以下は、実際の活動記録です。

クラスの概要
学年: 小学生、中学生 母語: 中国語、フィリピン語 クラスサイズ: 3名 日本語レベル: ひらがなの学習が終わりカタカナの学習が始まった学習者(日本語の挨拶ができ、ごく簡単な語句がわかりはじめたレベル)、カタカナは終わり漢字練習をしている中学生(少し会話ができる)

内容	目的
導入	
50音表を順番にみんなで読む。Tが読み、Ssが復唱。 アトラダムにTが指す。Sが言う。Sが先生役をして指す。 Tはほめたり、発音の修正をしたりする。	カタカナの導入と復習
日本語の施設マップ上の「とうきょうディズニーランド」を読む。 アトラクションの名前を読む 自分の好きなアトラクションの名前を言えるようになったら、ロールプレイ  『にほんごをまなぼう』『7 あそぼう』が終わったばかりだったので、 「ビッグサンダーマウンテンに行こう」 「うん、行こう」 を練習した。  S:「先生、これ早いですか？」 T:「スペースマウンテンは早いです。」 など、自発的な会話があり、イ形容詞の復習にもなった。これまでに学んだ語句を使い自発的に発話が出るようであれば、Tが修正・指導しながら促していく。(定着の活動)	拗音、長音、撥音などの特殊音が多い 漢字圏出身: カタカナ学習は早かったが発音の練習 非漢字圏: 特殊音の発音が得意だがカタカナを読むことが目標  それぞれの得意分野で協力させながら進める

応用の活動	
<p>(時間がある時)</p> <p>T、S1、S2の順番に好きなアトラクションを言って、他が書き留めるディクテーション(Tも書く)や、目をつぶって指で指したものを言い、みんなで聞き取る活動を行う。</p>	より定着を促す活動
まとめ	
<p>最後に、「プレゼントです」と言って、英語、中国語のマップを渡す。</p> <p>さらに時間があれば、母語を読み上げてもらって母語アイデンティティを強め、相互の文化尊重の気持ちを促す。</p>	母語、アイデンティティ 多文化共生